

三島市新規最終処分場候補地選定に係る住民説明会 会議録

1. 日時

令和2年2月16日（日） 午後2時00分から午後3時30分まで

2. 場所

富士見台自治会館

3. 出席者

【住民】：36名

【事務局】：佐野環境市民部長

廃棄物対策課：橋本課長、鈴木室長、松下課長補佐、仲田副主任、
鈴木技術主幹、井上主幹、小松主事

【受託者】：日本工営(株) 庄司、土村

4. 開会

事務局：佐野環境市民部長より開会のあいさつ。

5. 説明

<事務局説明>

「三島市新規最終処分場候補地選定について」、および「今後のスケジュール」について、これまでの経緯を含めて資料を用いて説明。

6. 質疑応答

住民：この説明会は、最終処分場が減ってきて、そこの住民にその理解・確認をしてもらうための説明ということでよろしいのか最初にお聞きしたい。

事務局：今回の説明は、候補地の決定でして、来年度に予定しております地質調査・測量等の調査をしてみないと分からないので建設することが決まったというわけではございません。周辺住民の皆様に対して、こういう形で進めさせて頂きたいという説明をする説明会でございます。

住民：実際に候補地が2か所に絞られて、最終的に賀茂之洞に新設しましょうという話ですよね。

事務局：そうです。その場合、住民の皆様理解を得て、そのあと問題なければ建設したいと考えております。

住民：20年前に自動車道の建設でダイオキシンが規制値以上出たということで1年間くらい処理に時間がかかったが、今回のダイオキシンの排出は大丈

夫か。

事務局：定期的に年 1 回測定しているが、富士見台公園は年間平均値が 0.0061
ということで、問題はありません。

住民：現在の埋立地のダイオキシン測定は大丈夫ですか。

事務局：先ほど、外部搬出をしていると説明したが、そのときにダイオキシンを
測らなければいけないので、毎年測っているが規制値以下で問題ないため、
受入をしている群馬県草津町へ運んでおります。

住民：ダイオキシンを測っているのは 1 年中しているわけではないですよね。
台風や地震などの災害時は大丈夫でしょうか。年 1 回の測定で大丈夫でし
ょうか。

事務局：法律で年に 1 回と決まっております。

住民：今は、焼却灰は外部で処理しているのでしょうか。

事務局：すべてではないが、大部分の量を県外に搬出しています。

住民：運営は成り立っているんですか。外部で処理をしてもらっているとい
うことで、それをずっと続けると何が問題になるのでしょうか。

事務局：当然、三島で処理せずに外部に持っていくとなると、それだけ費用がか
かります。また、災害廃棄物を処理するところも用意しなければなりません。

住民：15 年分しか処理できないとのことですが、その先のことはどう考えてい
るのですか。

事務局：次をどこにするかというところまで、まだ決まっておられません。

住民：その先の処分場が決まっていなければ、第 2 候補である徳倉を次
の埋立地にしてはどうでしょうか。

事務局：今、15 年分の処分場ということで検討をしているのですが、例えばもっ
と広い土地があれば、15 年分の処分場を隣接した土地に複数つくって
いくようなかたち、他の自治体でもそのように処分場をつくっているところ
もございますので、処分場を完成するのに広い土地があれば、探してい
きたい。

住民：15 年なんてすぐきてしまうから、次のことも考えてほしい。

事務局：どうして 15 年かといいますと、国から補助金を頂く関係で、15 年間程
度を目安とするよう定められているので、15 年分の埋立できる量の確保
を今しているが、賀茂之洞地区で決まりましたら、次のところを探し始め
ようとしています。

住民：今の埋立地が何年もつ予定で、いっぱいになったら、次はどこに建設
するんだという計画自体はあったのですか。15 年経ったら、また新たに調査
費をつかってということになるので、15 年後はこんなふうに計画すると

言い切ればいいじゃないですか。1 番は賀茂之洞にして、2 番は徳倉にするって言い切れますね。

事務局：次は徳倉につくるというのは、ここでは言い切れません。

住民：ここで言い切れなくてもいいんですが、私は市政運用について、いま言いたいんです。調査費を毎回使って、委員会を開いて、その中で A 案と B 案だったら、A 案が良いとかとても役所的なんですよ。100 年の計画とかならないんですか。

住民：国の補助金というのは、どれだけ出るんですか。国からの補助金が多いから、三島市として 15 年の計画を立てていると思うんですが、それはどれだけになるんですか。

事務局：賀茂之洞地区の建設工事費合計が 1,749,750 千円とありますが、本体土木工事と浸出水処理施設に対してそれぞれ 1/3 の補助対象になる。合計で 572,000 千円の交付金がいただける予定です。

住民：先ほど 15 年すぐ経つという話がありましたが、まずできるまで 10 年かかるということなんで、25 年先ですよ。できるまでの 10 年は、今の状態でもつということですよ。その後 15 年の間は、場外搬出はないという理解でよろしいでしょうか。

事務局：そうです。

住民：それでしたら、その分場外搬出するコストが減るということで、それもランニングコストに入っているということですよ。

事務局：ランニングコストに入っていないが、その考えで合っています。

住民：それからもう一点、処分場がつけられた時に想定した処分量というのは、見込みに対して増えているのか、減っているのかという点についてはどうでしょうか。人口と関連しているんですよ。日本の人口はもう 50 年くらい経つと、3 割くらい減るんですよ。だから、今の時点で 100 年の計画を立てようとしても、分からないですよ。それにその間に、技術革新があつて、もっとごみが減量できるとか想定できますよね。現状ごみは増えているのか減っているのか教えてください。

事務局：ごみ量は、その当時より減っていますので、当然ごみ量が減れば、焼却灰も減っています。

住民：分別が進んだということと、三島も人口が増えていませんからね。あと、三島市としての人口推計とかはしているんですか。

事務局：将来展望は 2020 年で 108,482 人、30 年後の 2050 年で 91,981 人としています。

住民：今の予定だと、今ある処分場が満杯になるのはいつ頃なんですか。

事務局：出た焼却灰を全部、今の処分場に埋め立てますと、3 年ですが、新しい

処分場が出来上がるまでは県外に焼却灰を搬出して、持たせていく考えています。外部搬出を同じ量続けていけば、第3処分場は13年程度もつということになります。

住民：外部搬出は1年でどれくらい費用がかかるのですか。

事務局：毎年、約8,000万円です。

住民：今、草津に受け入れてもらっているということですが、今後、草津に受入を断られるということはないですか。

事務局：今のところ、順調に受入れて頂いております。しかし、受入地が民間企業ということもあり、絶対ということはありませんので、現在、最終処分場の建設を進めているということです。

住民：焼却灰ということですが、実際には不燃物も埋めているんですよね。その割合は、どのくらいなんですか。焼却灰のほうが大きいのですか。

事務局：焼却灰（セメントから固化したもの）は、平成30年度1年間の排出量として約1,950トン、焼却炉の中には金属等も入ってますので、瀬戸物、リサイクルできないようなものを合計したもの（不燃物）が約870トンです。焼却灰のほうが2倍以上多くなります。

住民：外部に処理してもらっているのは、焼却灰だけですか。

事務局：焼却灰と不燃物、両方、外部処理しています。

住民：ごみは、周辺の他の自治体からも三島市は受け入れているのですか。

事務局：基本的には三島市のごみしか受け入れてないです。

住民：焼却灰であれば、焼却炉の改良をすれば、減るとか聞いたことあるんですが、そういうのありますか。

事務局：10数年前にダイオキシン対策で焼却炉改修を行っているが、その後、平成25年から平成27年にかけて、10数年もたせる改修工事を行いました。それは灰を減らすためのものではなかったです。

住民：焼却炉の改良で灰を減らすことは考えていないということですね。ごみの量を減らすしかないんですね。

事務局：そうです。

住民：いま、第1案、第2案が出ているが、最近の豪雨や災害を考慮して、防災上リスクの判断は入れているのか。例えば、大容量の堆積物に雨がしみ込んだ時の対応等はどうなっているか。

事務局：両候補地につきましては、今後、温暖化が進んでいるということもあり、集中豪雨等が起きた場合を考慮して、必要な容量の防災調整池を今後開発時に建設していく予定です。また、最終処分場の基本計画の中で、最終処分場の配置と基本構造が決定しましたら、実際の建設面積を設計する段階で十分に検討していきたい。

住民：いま出ている2案の中で、調整池がどれだけ確保できているか、その分埋立地面積がどれだけ小さくなるかという、そういった評価はしていないのですか、ということを知りたいんですが。

事務局：防災上の観点については、両候補地において必要な容量を確保したときに、どのように施設が配置されるか、防災調整池についても、集水面積、雨が集まってくる面積がどれだけで、その結果、防災調整池がどれだけ必要かということは既に検討しております。いま、今後経験したことのない大雨の量が降ったらどうするんだというご質問がありましたが、既にその件については、国の処分場の構造基準の中でも水がたまらないような、すぐに搬出できるような構造にすると決まっております。また、水の処理能力については、浸出水処理施設の処理能力に記載のとおり、70m³/日と試算しております。今後大災害に対応できるような貯留構造物について、今後の詳細な施設調査で対策が必要ということであれば、基本計画・基本設計の段階で検討する予定です。

住民：ありがとうございます。大雨が起こった場合、そのような点は心配ですので、検討をよろしく願いいたします。

住民：2点お聞きしたいことがあります。1点目は、いま、農道の信号の手前で右側に、埋立地とか処理場の看板がでているのですが、あれはなんですか。もう1点は賀茂之洞地区の文化財（五百地遺跡）というのは、どこにあるのか、この候補地内にあるのか離れたところにあるのか教えてください。

事務局：1点目の、末広公園のところですが、それは残土捨て場となっています。最終的には原状復旧するようです。また、所有は市ではなくて個人、民間の会社の所有のものです。2点目の遺跡についてですが、三島市のホームページにすべて登録されている候補地がありまして、現在は計画地のはずれに位置しています。そちらの遺跡と被るか被らないかについては、今後、基本計画を行うにあたって詳細な範囲を決めたうえで判断されることとなります。

住民：埋立地の面積だけではなく、深さ方向の検討はあるんですか。

事務局：それぞれの候補地において75,000m³の容量で図面を作成している段階です。確かに深さ方向も考えれば、それだけ容量を確保できるという考えになるんですが、当然掘れば掘った分だけの土がでてきましてそれを処分しなければならぬということで、基本的には必要容量を確保できる分としています。また、掘った分、水もでてきましてその分ポンプアップしなければいけませんので、基本的にはそれは行わずに自然流下できるような形で、現在検討しています。

住民：賀茂之洞地区で、下水道放流とあるが、どこに流すつもりなんですか。大丈夫なんですか。

事務局：賀茂之洞地区につきましては、既存の埋立地から排出される浸出水は、下水道施設へ放流を行っています。今後、新たな処分場の供用が始まりましたら、既存の処分場の処理施設で処理をしまして、下水道に放流する予定としています。

住民：賀茂之洞地区の「防災調整池からの排出先は既存の排水溝へ放流する」とあるが、これはどういうことか。

事務局：これは処分場の中にたまった水ではなくて、降雨によって処分場周辺に集まった雨水が防災調整池にたまって、それを放流している。

住民：いま埋立地の話をしているのですが、焼却炉も古くなってきていると思うので、その建て替え用の用地も確保しているんですか。

事務局：焼却施設につきましては、三島市だけでつくるのか、近接の市町と協同して建設するのかという点について、いま話し合いに入ったばかりですので、一緒にやろうとなれば、検討したいと思います。

住民：今回の進捗状況は、どういう形で広報されるのですか。

事務局：地元の皆様への説明につきましては、今後ホームページに掲載する予定です。

7. その他

事務局：その他、ご質問やご意見等ございましたら、廃棄物対策課のごみ処理施設整備推進室までご連絡をいただければと思います。また、本日の資料の裏面に、連絡先等記していますのでこちらからお問合せください。また、三島市のホームページからメールで問い合わせることもできますので、よろしく願いいたします。

8. 閉会

事務局：以上を持ちまして、三島市新規最終処分場候補地選定に係る住民説明会を閉会とさせていただきます。住民の皆様におかれましては、有意義なご意見・ご質問いただきましてありがとうございます。なお、新規最終処分場の建設については、自治会様と連絡を密にしながら、進めて参りたいと思います。今後、ご理解とご協力をお願いできればと思います。お忙しい中、長時間にわたりご出席いただきましてありがとうございました。